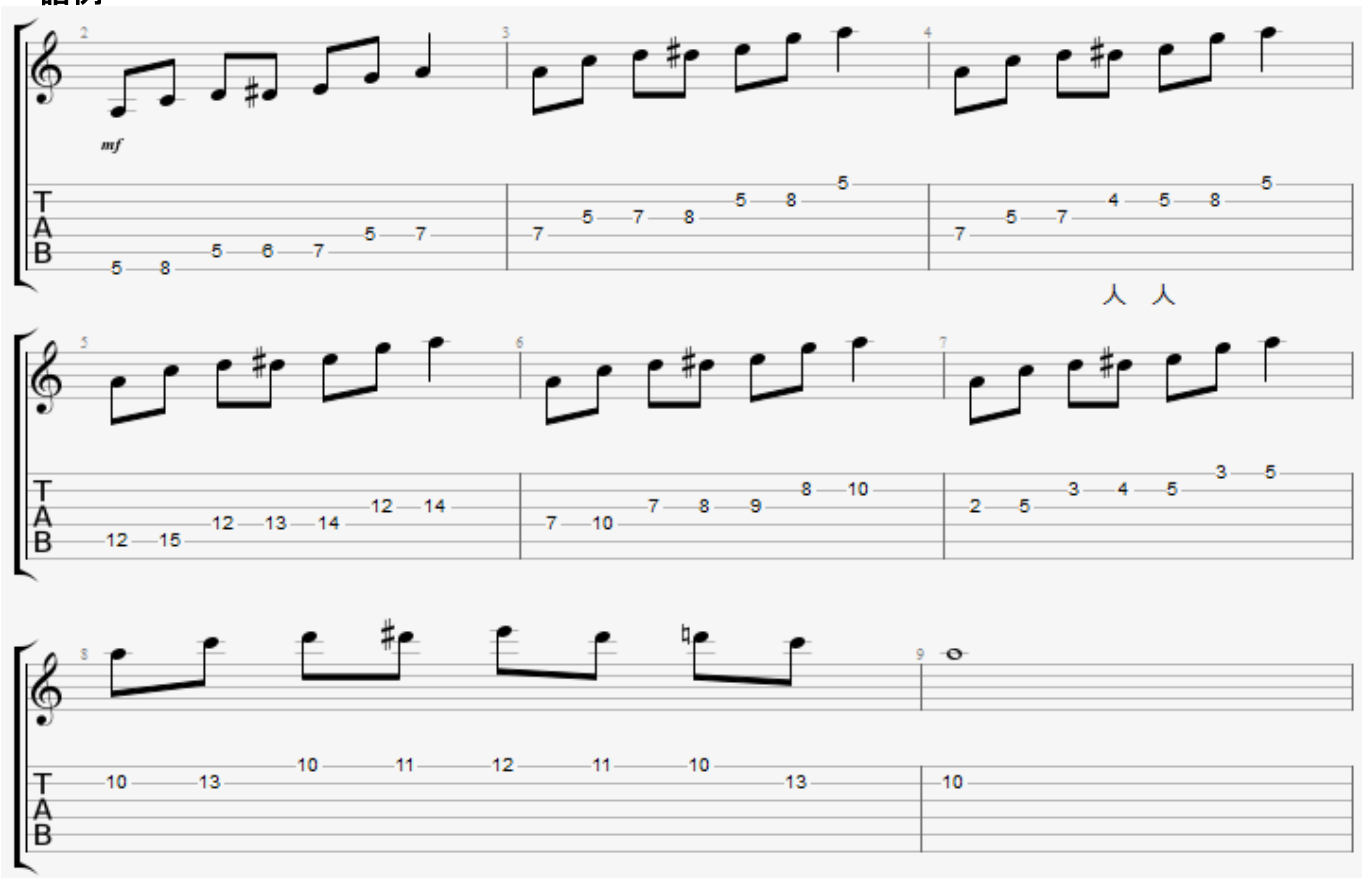
Vol.06　マイナーペンタ+♭5のブロックを弾いてみる

では、vol.06、やっていきましょう。

今回は、前回学んだマイナーペンタのブロックに『♭5th』を加えたものを弾いてみます。

譜例



♭5th は、代表的な使い方としては、ブルースやロックなどで「ブルー・ノート」として出てくるものですね。

ブルース系の要素を含む音楽やプレイが好きな人は、何かしらの楽曲の中で、♭5h が含まれるフレーズを弾いたことがあるはずです。

前回の、マイナーペンタのみを弾いたものとの違いとしては、今回の方が、1 音加えただけですが、メロディーがズシッと重くなる様な感じを受けるでしょう。

さて、この譜例の中では、ほとんどのポジション(ブロック)に馴染みがあるかと思いますが、3 小節目の様な弾き方をしたことがある人は、おそらく、そこまでいないでしょう。

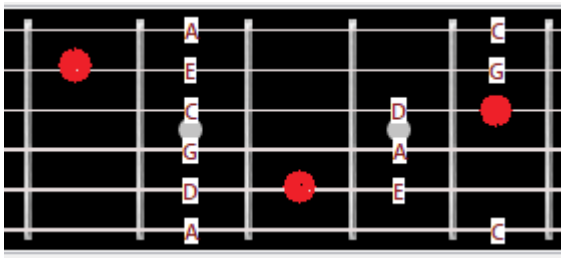
Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

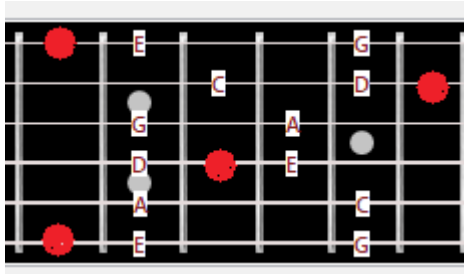
ここは、♭5th として使うのはもちろんの事、ギターでは、♭5th と♯11th(♯4th)が異名同音なので、リディアンのテンションの位置にもなります。

弾いているスケールが何であれ、トニックの位置から見た、音の配置自体は変わらないので、複数のスケールを覚えているのならば、それらの組み合わせでインターバルを覚える、と言う観点も持っておきましょう。

例えば、A マイナーペンタの代表的なポジション上では、♭5th はここにありますね。

※図 1

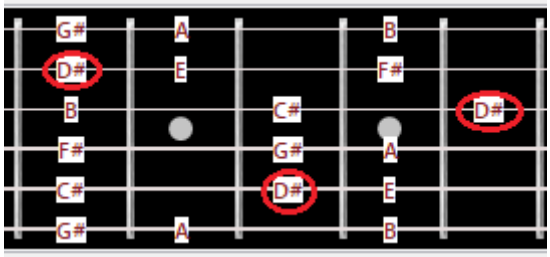




この赤丸の位置が、♭5th 兼、♯11th でもある、と言う感じです。

以下の、A リディアンの♯11th の位置と見比べてみましょう。

※A リディアン



後は、気が付いた人もいるかもしれませんが、実は、vol.04 でやった、「メジャーペンタ+m3rd」の『m3rd』と、今回の「マイナーペンタ+♭5th」の『♭5th』の位置は同じです。

違うのは、リラティブ(平行(調)的)な関係性にある、メジャーとマイナーのスケールの、「トニックの位置」をどちらに見るのか？と言う事です。

今回の例で言えば、A マイナーペンタと C メジャーペンタは構成音は同じですが、A マイナー側から見ると♭5th が E♭音、C メジャー側から見ると、m3rd が E♭音、となります。

これらは、どちらから見てもおいしい音なので、上の図 1 の様な、ペンタの代表的なポジ

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

ションとひっくるめて覚えてしまうと便利ですね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved